

グループホーム アート園

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域密着型サービスに移行し、再度理念を見直し「我々は、地域の人々との交流を深め、地域に開かれたアート園となるように努めていきます」と作り直しました。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念については毎日の申し送りの際、スタッフ間で唱和し再認識するようにしています。そして、実践に向け日々一人ひとりの楽しみや、やりたいことを出来る限り実現できる様に努力しています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		二カ月に一度の運営推進会議時、毎月地域の老人サロンに参加した際に、運営推進会議に参加して頂いている民生員の方と意見交換を行い、当園の理念を理解して頂けるように努めている。また家族の方に対しては、家族会や家族便りにて活動の内容を詳しく説明しています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		毎朝の散歩、近くのスーパーへの買い物へ入居者の方と出かけた際、近所の方より挨拶や気軽に声をかけて頂いてます。又、地域の方より七夕の時には笹の木を頂いたり、毎月町内会の清掃活動、老人会のサロンに参加させていただいてます。時には、入居者の方とおやつを手作りにて持参し、地域の方と一緒に食べるなど気軽な近所づきあいをさせて
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事(敬老会、清掃活動、老人クラブ、保育園のバザー)に参加させていただいたり、親交を深めるために地域の方と親睦会を開催しました。他に公民館で開催されたAEDの講習に参加させていただいたり、利用者の方が作成された作品を近所の郵便局に展示させていただきました。また中学生の体験学習の受け入れも行ってます。

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域の方をお招きして施設見学をして頂き入居者の方の生活を見て頂いたり、お話していただいたり一緒にお茶を飲む機会を設けました。その時に介護に関する質問をお聞きしたり、地域の方の声を聞くことができました。また、地域の老人会で行われている清掃活動に参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に取り組む委員会があり、昨年の評価を活かし入居者の方の生活の向上になるように取り組んでいます。取り組み内容は、改善計画書を作成し各ユニットへ配布してスタッフ全員に閲覧を呼びかけ周知するようにし、日々の業務報告でも取り組み内容を申し送り行い理解を呼びかけています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方へ園の運営・入居状況や、活動内容、外部評価の結果を報告しています。また、町内会長、自治会長、警察の方をお招きし当園での離園マニュアルを報告しアドバイスを頂き、災害時防災マップ作り、入居者の方の離園時の協力体制をお願いしセーフティーネットワーク作りを行いました。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判断に迷う際は、市の担当者の方には電話、FAX、メールにて相談する事はあるが、行き来する機会はない。		定期的に行き来する機会をもち、運営状況の報告や意見交換を行いサービスの向上に役立てていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	教育委員会があり定期的に勉強会を開催しています。「地域福祉権利擁護事業」、「成年後見制度」に関しても年に1度はテーマとして取り上げ、スタッフが理解できる様に努めています。勉強会で使用した資料は各フロアにてファイルしスタッフが閲覧できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内で開催される勉強会にて取り上げ虐待が起こらないように努めている。その際、スタッフにアンケートをとり意識調査を行ったり、具体的に例をあげて取り上げ、虐待とはどういうものなのか職員全員に周知出来るように努めている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に家族に対し介護に関しての希望、看取りに関しての考え、医療に対する要望を伺うようにし、園での対応可能な範囲を説明し理解を得るようにしています。また不安、疑問には出来るだけ詳しく説明し、事前に見学を勧め納得して契約して頂けるように心がけています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方との会話により不満、要望をお聞きして改善できる様に努めており、施設長もたびたび各ユニットを訪れ入居者の方の声を耳を傾けている。また、運営推進会議のメンバーである民生員の方に相談窓口になって頂いています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりは、家族便りや体調の変化があった場合、電話にて報告しています。金銭管理については毎月の使用金の用途、残高を書面にて報告し確認印を頂いています。スタッフの移動については家族便り、園内のエレベーターに顔写真を添え掲示しお知らせしています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各行事、面会時など家族の来園時の際には声をかけ意見、要望を伺うようにしています。玄関にも投書箱を設け、意見、要望、苦情などを言って頂けるようにしており、ご意見があった場合には改善に向け苦情係が取り組み、取り組み内容をスタッフへ報告するようにしている。また外部者の方に意見を伝えられるように運営推進会議のメンバーである民生員の方に窓</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に施設長を交えて全ユニットから代表スタッフが参加してのミーティング、全体会議を開催しています。そこで意見交換を行えるようになってきている。また管理者も業務に参加しており、スタッフの意見を聞き、意見交換を行うようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎日の取り組みの中で利用者、家族の要望にお応えできるように、その時々状況に対応できる様な勤務体制を心がけています</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の方が戸惑われることが無いように、馴染みの顔で介護にあたるように可能な限り職員の移動は行わないように心がけている。異動後はなるべく入居者の方へのダメージを和らげるように事前に移動先のユニットへ挨拶に訪れたり、細かく申し送りを行うようにしています。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、男女それぞれ年齢に応じた役割が発揮できる様にと考え、性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、スタッフの個々を尊重し自由に発言できる様な環境作りを心掛けており、全スタッフが認知症介護実践者研修が受講できる様に順次支援している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育の研修に参加した後、スタッフへ伝達講習を行ったり、園内の勉強会でもテーマとして取り上げ啓発に努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当園は福岡市の事業者協議会に入会しており、職員は協議会で開催される研修に参加できる様になっている。また、園内にも勉強会を開催する委員会があり、スタッフが働きながら勉強をする機会が持てるようになっている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修に参加した際には、同業者の方と交流を持ったり、意見交換を行うように努め、そこで聞いた意見を反映させサービスの向上に役立てている。</p>		<p>定期的に事業所間の訪問を行ったり意見交換が出来る機会が持てるように近隣の事業所間にて名簿作りを開始した段階にあります。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>全体ミーティングの時に、施設長に直接要望などを聞いて頂いています。また勤務中も気分転換できるように休憩室がある。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は定期的に各ユニットを訪れスタッフ個々の努力、実績を把握するように努めている。また質の向上のため園外の研修を受講できたり、全スタッフが「認知症実践者研修」が履修できる様に順次支援している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当園に入居前に施設長がお宅や入院中の病院に訪問して本人、家族から現在困っていること、不安、介護に対しての希望を伺うようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当園での面談の前に事前に自宅を訪れた際や、電話などで家族の方ともお話し、不安・悩みを伺うようにしている。それらの要望にお応えできるか、スタッフ間で話し合い検討しています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた時によくお話を聞くように努め、本人・ご家族が一番求めているらっしゃる支援を見極め職員全員で連携してサポートしています。園で出来ないサービスは他機関のリハビリ、歯科、整骨院などへ結びつけて対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来ていただいた時に、お茶を飲みながら入居者の方と会話をさせていただき、園の雰囲気を感じていただいています。		一度の見学だけではなく、機会があるなら何度か足を運んでいただき本人が園の雰囲気に慣れた後で園生活を始めて頂く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	手芸が得意な方には花瓶敷きを作っていたり、お料理が得意な方には下ごしらえをして頂き、教えをいながら一緒に作業を行っています。センター方式のアセスメントを活用し、ご本人、家族よりお話を伺うようにしており、本人の得意なことをして頂き過去の経験を発揮して頂くようにしています。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	園で開催される行事等の時には、毎回家族に参加を呼びかけ、家族、ご本人、職員と共に楽しめる時間が持てるように心がけてます。面会時には、本人と共に外出を勧め、ゆっくり家族の方と会話する時間を持って頂けるようにしています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会、各行事などなるべく園へ来て頂き、共に楽しんでいただけるような機会作りを心がけており、面会時にも本人と外出・外泊を勧めています。また、正月・お盆には家族の方に年賀状・暑中見舞いを書いて頂いています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身寄りがない方はお盆・正月と一緒に墓参りに出かけ、お花・線香をあげに出かけています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の交流が持てるように、合同でレクリエーションを行ったり、地域の老人サロンへ毎月参加して他のユニットの入居者の方との交流が持てるような機会作りを支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の病院受診時などに、以前入居してあった方、入院中の方のお見舞いに訪れるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、一人ひとりの思いや、暮らし方の希望を把握するようにしている。意思疎通が困難な方は、家族の方にお話を聞き、在宅時の趣味や習慣をなるべく継続して行えるように心がけている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設長が入居前に利用者のお宅に訪れるようにしており、それまでの暮らしぶりをご本人や家族から伺うようにしています。入居後も引き続き利用者の方の生活習慣を継続して行う事が出来るように家族や本人との会話から以前の生活ぶりを伺うようにし、把握するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の一日の生活パターン、心身状態の変動を観察、記録し本人の様子を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、先に家族やご本人に希望を伺うようにしている。お聞きした希望をスタッフ間でカンファレンスを開き検討し、プランを作成するようにしている。作成後もユニットスタッフ全員に閲覧してもらい、意見を聞くようにしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三か月毎にカンファレンスを開催し見直しを行ったり、毎月プラン毎に評価を行っている。期間中もプラン内容が本人の生活ぶりとはそぐわない場合見直しを行い、現状に即したプランに作り直すようにしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って介護記録を記入するように心がけている。本人が興味を示されたこと、示されなかったこと、体調の変化など日常の様子を記録するようにしており介護計画の見直しに役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望されること(買い物、散髪など)、家族の状況に応じて他の医療機関への受診やリハビリへの通院を支援している。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生員が開催する老人サロンへ参加させていただいている。離園時に備え、警察の方をお招きし緊急時の対応方法についての意見を伺い協力体制をお願いしている。消防の方にも避難訓練時に立会いをお願いし、AED、心肺蘇生の指導をして頂きました。また、入居者の方には定期的に書道展に出展したり、園内で陶芸教室を開催して頂き参加し		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況に応じて、訪問美容に来て頂き利用して頂いている。対象になる方には福祉サービスのおむつの給付を受けられるように支援している。また、本人の希望に応じ他の医療機関でのリハビリが受けられるように支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、意見を伺うようにしている。参加されなかった場合には、会議の報告書を提出しています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安心して生活して頂けるように、面接時に事業所の協力医を説明し、家族や本人にかかりつけ医を伺い選択して頂くようにしている。事業所の協力病院には、緊急時には総合病院に紹介して頂き受診できる体制がある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近所に専門医がおり、受診で利用しながら状態の変化があったら電話で相談するなど、受診以外でも相談させて頂けるような体制があります。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時看護スタッフが勤務しており、医療行為を必要とするときに対応してもらったり、健康管理を行ってもらっている。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には、園での生活状況の情報提供書を病院へ提供し、お見舞いに訪れた際には、主治医や看護師の方よりご本人の様子についてお伺いしている。また、家族ともお話ししながら本人、家族の意向に応えられるように支援するように心がけている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期を迎えられた方には、本人の意向をお伺いし、家族・主治医と相談しながら本人の意思を尊重したケアができるようにスタッフ間で話し合うように心がけている。園でも指針を定めており、近隣にホスピス病棟を有する医療機関があり、連携をとりながら支援できる様になっている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期にご本人が望んであることを尊重し、少しでも心の安定を図りながら生活して頂けるように、ホスピス病棟を有する病院と連携をとりながら支援できる体制があります。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り住まわれる際には、新しい住居でも引き続き当園での生活習慣を行って頂けるように情報提供書を作成し提供するようにしている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者に対する声掛けなどの接遇の勉強会を園内で開催し、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように気をつけてます。また、個人の記録については入居者の方の目に届かない場所に保管しています。</p>		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望をなかなか言われないような方に対しては、気持ちを傾聴するように努めています。また説明をするときも、例をあげて説明し、ご自身で選択できるように働きかけたり、納得して頂けるまで説明をするように心がけてます。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れで時間の制限は設けてません。相手のペースで生活をしてもらえるように心がけてます。一人ひとりの声に耳を傾け、買い物や散歩など要望があれば柔軟に対応できるように心がけ、日中もご自身のペースを尊重し、無理強いすることなく過ごして頂いています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	屋外に出て、出来る限り地域の方と触れ合う機会を持って頂けるように、希望される方は地域の理美容店を利用して頂いたり、使い慣れた化粧品を使用して頂けるように一緒に買い物へ出かけています。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力、お手伝いの好き方に食事の準備を手伝っていただいたり、盛り付けを一緒に行っています。献立を決める時にも、利用者の好みを伺い一緒に食べ、食後も利用者の方と一緒に片付けを行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の要望に応えられるように、ご本人の病状に照らし合わせ健康を害されない程度に一緒に近くのスーパーに出かけ買い物し、好きな飲み物やお菓子を提供しています。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日の排泄表を見て、その人の排泄リズムをつかみ、水分・食事へ配慮し、適度な運動をおこなって頂き自然な排尿・排便へ導けるように心がけてます。また、尿意のない方には時間を定めて誘導し、出来るだけトイレで排尿して頂き尿取りパットへの汚染を防ぐように心がけてます。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが入浴される際は、湯船のお湯も熱いお湯、ぬるま湯が好きなどこだわりがあり、その方その方に合わせて温度調整を行い入浴して頂いています。定期的に入浴剤を変えたり、一人ひとりゆっくりと入浴して頂いています。		毎日、時間を選ばずに本人の希望に応じて入浴して頂けるように支援する。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣を尊重し、起床・就床の時間は特に定めてません。夜間、ゆっくり十分な睡眠をとって頂けるように、昼間に活動やレクリエーションに参加して頂いています。就床時間も個々の生活習慣に合わせてるようにし、眠れない方には一緒にお茶を飲んだり会話し、安心して入眠して頂けるように心がけてます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	踊りの好きな方には、レクリエーションで披露していただいたり、手芸が好きな方には花瓶敷きを作って頂くなど、ご本人が得意とされてあった過去の経験を発揮して頂けるようにしている。また、入居者全員で楽しめるようなレクリエーションを定期的開催しています。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、本人がおこずかいを管理されている方もいらっしゃいます。散髪や買い物に行った時には、ご自身で支払って頂けるようにお渡しし、持たれている財布よりお支払いして頂いています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の方が散歩に行きたい、買い物に行きたい等の要望にお応えし、外出する機会を持って頂き気分転換が出来るようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族便りや、面会時に外出の支援をお願いし、家族の理解・協力を得て外食やデパートへの買い物、お祭りを見に行かれます。また、身寄りがない方もお盆・正月にスタッフと一緒に墓参りに出かけてます。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があったら、その都度かけて頂いています。また正月には、本人の直筆にて家族の方に年賀状を書いて頂いています。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に制限を設けてなく、気軽に来て頂けるように家族の方にはお話をしています。面会に来られた時には、自室にてお茶を飲みながら、ゆっくりお話をして過ごして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催する委員会があり、年に1回テーマで取り上げ職員全員が周知出来るようにして拘束を行わないケアを実践できるように取り組んでいます。日々のケアの中でも声掛けによりご本人の行動を制限しないように心がけています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵がかかりますが、使用しないようにしています。玄関も夜勤帯のみ施錠し、日中は手動にて開閉できる様に開放しています。入居者が出られる時にはさりげなく声掛けをし、一緒に出かけ安全面に配慮し自由な暮らしが出来るように支援しています。また近隣には、迷子になって出歩かれている時には連絡して頂けるように案内を掲示しています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、昼夜を問わず入居者の所在確認をするように心がけてます。昼間はリビングに一人スタッフが居る様態を心がけ、見守りを行うように努めています。夜間も定期的に巡回を行い、入居者一人ひとりが何をされているか把握しながら仕事にあたるように心がけてます。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの能力に応じて爪切り、はさみ、裁縫道具、洗剤など居室に置いて頂き、スタッフが一律に管理しないようにしています。夜間、包丁など危険度が高い物のみ保管場所を変更して安全に配慮しています。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生後は事故報告書を作成し、各ユニットへ配布して再発防止に努めています。窒息や誤薬は勉強会にてテーマとして取り上げスタッフが学ぶ機会を持つようにしている。行方不明や火災については消防、警察の方に来て頂いて意見を伺い指導を受けセーフティネットを作っています。		災害時に使用する個人の病歴などを記載した身分証明書を作っている段階です。

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故の対応については外部研修に参加したり、園内の勉強会で年に一度はテーマとして取りあげ、職員が学べる機会を持てるようにしている。また、応急手当、心肺蘇生、AEDについては消防の方を招き、講習・訓練を受けました。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方の立会いのもと利用者の方と共に避難訓練を受け、指導をいただき改善に取り組みました。また、民生員の方を通じて災害時には地域住人の方の協力が得られるようになっています。警察の方から災害時の利用者の避難場所、避難経路等の指導を受けました。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前の面談時に、家族の方に転倒など起こりうることを説明し理解して頂いてる。入居後も家族に薬の副作用を説明して理解して頂き、リスクを理解して頂けるように努めている。事故発生後は対応策を話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の生活で体調・精神的な変化があった場合には主治医に報告し、指示に応じて受診して、結果を家族の方に報告してます。スタッフにも結果を受診ノートに記載して申し送りを行い、情報を共有するようにしています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の処方せんは各個人ごとにファイルにとじて、スタッフが用法、副作用などが確認できる様にしている。症状に変化があったときには、受診結果をノートへ記録し処方の変更内容、理由を確認できる様にしている。また園の勉強会でも薬の副作用についてもテーマとして取り上げ学ぶ機会を持ちました。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操・散歩を行っています。食事でも繊維の多い野菜を食材で利用したり、牛乳やヨーグルトを食べて頂きスムーズな排便が出来るように心がけてます。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、呼びかけを行っています。義歯の方は、夕食後お預かりし、消毒を行っています。また、外部研修に参加し園内の勉強会にて伝達講習を行い、職員が口腔ケアの重要性を認識しました。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量はチェック表を作成し一日の摂取量を把握するようにしています。食事量が低下されている方は個別に好きなメニューを取り入れ、召し上がって頂いています。また、嚥下が悪い方にはとろみをつけたり、きざむなどしてご本人の状態に合わせて提供したり、朝の体操のプログラムで「パタラカ」の発声を行っています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しては、毎年勉強会を開催し原因の理解に努め、包丁やまな板、布きんも毎日消毒を行っています。また、インフルエンザに関してはスタッフ、利用者全員が予防接種を受けるようにしており、食事前も手の消毒を行って席に着くようにして頂いています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板、布きん等の調理用品は毎日消毒を行っています。また、まな板も肉類、魚類、野菜類などの食材毎に使い分けをし、賞味期限・保管方法にも注意をしています。冷蔵庫もチェック表を作成し、定期的に掃除を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、建物周囲に季節の花を植えて、利用者の方と水やりを行い一緒に育てています。玄関先にベンチを設置し、散歩や外出の帰りなどに腰をおろして頂き、季節の花を見たり、会話などしたり、憩いの場として楽しんでいただいています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、トイレ、テーブルには観葉植物や季節の花を飾っています。壁には、掲示物を管理する係りがあり、季節に応じて掲示しています。また、玄関には入居者の方の作品を掲示して、面会に来られた家族や、外出される入居者の方に見て頂けるようにしています。		

グループホーム アート園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を出ると、顔なじみの方たちが集まりお茶を飲んだり、気軽に会話したり安心できる空間作りが出来るように、テレビの前にテーブル、ソファを置いています。		共用空間の中でも一人で過ごせるような居場所作りを行う。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で生活されていた時に使用されていたもの(家具、アルバム、仏壇など)を入居時に持ってきて頂いて、安心して生活をして頂けるように心がけてます。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の時間を利用して空気の換気を行っています。また、各居室、フロア、廊下に温度計を設置してなるべく外気温との差が5 以内に保てるようにしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し利用者の方が安全に生活できる様になっています。また、身障者や車いすの方が使用しやすいトイレがあります。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、廊下にはわかりやすいように案内の掲示を行っています。また、自室には目印になるようにドアに暖簾をかけて他室との区別がつくようにし、目で見て理解して頂き混乱を防ぐように努めています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りやベランダに花や野菜を植えて入居者の方たちと一緒に水をやりながら育てています。また園の隣には公園があり、そちらの外回りにも花を植え近所の方たちが通られた時に楽しんでいただけるようにしています。		

グループホーム アート園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム アート園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームならではの地域とのかかわりを大切にし、月に一度必ず老人サロンに参加させていただき地域の方とのふれあい、公園掃除、地域の方への貢献。2カ月に一度開かれる運営推進会議では警察、消防、地域の自治会長さん、民生員さんとセーフティネットワークを作り上げたこと。敬老会にいつも来て下さっている、幼稚園のバザーに出かけたこと、他施設を利用しリハビリに送迎して通わせていただいている事、陶芸で各一人ひとりの愛着のあるマグカップが完成したことなど、一人ひとりを大切にゆとりを持ってサポート出来ていることです。